

### 【釜石神愛教会・神愛幼児学園を拠点としての支援について協議】

震災支援室長の町司祭は、3月28日（火）に、加藤主教・中山司祭に同行して盛岡経由で釜石を訪問しました。今回、甚大な被害が伝えられている釜石には、東北教区に属する釜石神愛教会と神愛幼児学園（保育所：高橋仁美園長）があります。震災時は、保育（お昼寝）時間中で、急ぎ近隣の避難所への避難が行われ園児・職員共に全員が無事でした。市街を襲った津波は幼児園から1.5キロメートル手前に留まり園舎も大きな被害を免れました。発生後数日間、地域の避難所としての役割を果たした後、現在は保育を再開しています。私共が訪問しました時にも園内には元気な子供たちの声が溢れていました。このように、一見普段通りのように見えますが、家を失い避難所や親族宅から出勤されている職員・今もご両親が安否不明の中で仕事に就いておられる職員、避難所に身を寄せている4家族のもとから通園している幼児など、笑顔と歓声の背景にはたくさんの悲しみや困難が横たわっています。

#### 《釜石幼児学園の高橋章介理事長・高橋仁美園長に加わっていただいた協議の内容》

- ① 震災地の中で保育が継続して行われている事こそが、同学園が震災地域において期待されている最も大切な働きである事。それは、現在の地域環境の中で、幼児に安全で安心な生活環境を提供し続ける事の大切さと、お子さんを安心して保育に委ねる事ができる事が被災家族の方々に再建に向けて専念できる環境を提供できるからです。
- ② 一時避難所としての機能を果たした同学園は、地域の信頼も厚く支援物資の集積もあり、支援物資の管理・提供や、ボランティアについての問い合わせなどの対応に保育職員が貴重な時間を割いておられます。これらの対応にあたるため、又、夜間無人となる園舎の安全のためにも、信頼できるスタッフの派遣が期待されています。
- ③ 地域で永く働いてきた同学園は、園児や園児家族のみならず、震災地における様々なニーズに接する立場にあります。刻々と変化する地域の方々の必要に応える働きを通して地域市民への支援活動へと展開するためにもボランティアスタッフの活動が望まれています。
- ④ 上記の必要に応えるため、東北教区は釜石での働きを、北海道教区との協働で行う事とし、北海道教区は、スタッフやボランティアの派遣に協力する方向性を確認しました。
- ⑤ 釜石神愛教会は、幼児園ホールを兼ねている礼拝堂の一部を支援活動のために提供して下さり、幼児学園は園舎隣接の理事長室をスタッフルームとして提供して下さる事になりました。

協議の後、高橋章介理事長に案内いただき、津波被害を受けた市街地や同地区にある教団・カトリック教会の活動の様子や、釜石市郊外の壊滅的被害を受けた諸地域を案内いただきました。私事ですが、未だ安否不明の叔父叔母が居住していた同市鶴住居（うのすまい）の家場所にも案内いただき、土台のみ残る場で祈りの機会が与えられた事も感謝でした。

### 【北海道教区は、聖職1名を釜石に継続的派遣へ】

来週より、聖職1名を常時釜石に派遣する方向で北海道教区は、準備に入りました。今後の展開によりますが、1か月交代で継続的に派遣するなどの方法を検討しています。派遣する人の人選やローテーションと共に、その間、留守となる教会の礼拝や牧会を分区や教区で側面的に支えて行くための仕組みを整えています。

## 【釜石を拠点とする支援についてのお願い】

### ●現地ボランティアを募集

教区では聖職の派遣の他、併せてボランティアスタッフの募集もいたします。1週間以上現地に滞在していただける男性1～2名（当面は宿舎の関係で男性に限らせていただきます）を募集いたします。現地往復の旅費については、支援募金で支給いたします。

### ●活動用の自動車・カーナビの提供

現地でのスタッフの移動や支援物資の搬送のために、自家用車を一台確保したいと願っています。車種については問いませんが悪路を走りますので美車の提供は、ご遠慮いたします。

（※ 軽の四駆のワンボックス・ハッチバックなどが理想です。）

期間中の自動車保険などについては、教区において手当て致します。

また、不慣れな土地での移動や、迂回道の利用などがあるため、後付け用のカーナビの提供のお申し出も歓迎いたします。

### ●支援物資は、直接釜石への送付をお願いいたします

皆様の教会に集積いただいている救援物資は、直接下記までお送りください。

宛先: 〒026-0041 釜石市上中島4-2-20 電話 0193-23-1553

### 釜石神愛幼児学園

※現在は、「男児・女児の下着」「大人の男女下着」「紙おむつが」特に必要とされています。

※郵パック、クロネコ、佐川、何れも釜石市内の営業所まで届く状況になっています。

## 【避難所として聖ミカエル国際青年寮が登録】

「札幌聖ミカエル国際青年寮では、震災被害のご家庭の子弟（男子）2名を受け入れることを北大学務部学生支援課に申し出ました。また、聖公会関係者からの紹介でも同条件で受け入れたいと思います。部屋代無料以外に食費に関しても状況により支援の可能性はあります。」

その他、聖公会北海道学園・聖公会北海道福祉会傘下の幼稚園・保育所も避難所としての提供を北海道庁経由で登録しています。

## 【小名浜における支援状況】

福島原発の事態が憂慮される中、科学的に正確な状況判断は難しく、今後の事態について大変不透明、かつ緊張感と不安が高まっていることに鑑み下記の決定がなされました。

- (1) 40歳以上で、完全に自己の意思・希望によるということを同地におけるボランティア活動の条件とする。
- (2) 4月6日をもって、小名浜での<第一次>支援活動を休止する。
- (3) 今回は休止に向うが、同地の状況を見守りつつ、今後<第二次>の地域奉仕の活動が展開できることを期す。

以上により、小名浜への物資の搬入はストップとする事となりました。

## ○現地から

司祭フランシスコ飯野正行

～震災支援の先遣隊として、大町司祭・永谷神学生・飯野が派遣され、大町司祭は支援活動の可能性について、加藤主教を始め東北教区のスタッフと協議。永谷神学生は事務所機能の強化のために活動。私は、仙台基督教会の林司祭と信徒の方々に同行させていただき、仙台近郊の被害の大きかった地域信徒の方々の安否確認と支援物資の提供活動をいたしました。それで、現地を実際に回った者としての私の立場から、仙台入り直前の経験、現地での経験、スタッフの方々

の様子ので3つの角度から、体験した事・肌で感じた事をお伝えしたいと思います～

### I. 仙台入り直前の経験から.

女満別空港から新千歳空港経由で山形空港へ行き、2台のバスを乗り継ぎ、仙台入りを致しました。まず驚いたのは、山形空港の搭乗待合ロビーの大混雑でした。他県へ移動される方々で溢れているのです。この光景を見ただけで、ただ事ではない事が起こっていることを肌で感じました。バスを待つ長蛇の列にも驚きましたが、その列はどんどん長くなって行きます。走行するバスの車窓から見える景色にも無言の重圧を覚えました。屋根の瓦が剥がれている家、ブルーシートに覆われた家、崖が河川に崩れ落ち、地面がひび割れ、アスファルトが盛り上がっています。高速道路に突然表示される「地震、ここから出よ」にも緊張しました。あぜ道を歩く方が持つビニール袋はカップ麺で破れそうでした。市街に入りますと、ほとんどの店が閉まっており、ガソリン・スタンドもコンビニも「休業」の張り紙が目立ちました。開いているコンビニから出て来た方は幾つもの弁当を両手に持っておられました。給油可能なスタンドには車の長い列が出来、「緊急車両専用」の看板も多く見られました。ありったけの力を生きる事に集中している姿でした。

### II. 被害の大きかった方々をお訪ねした経験から.

21日(月)夕方に仙台入りし、諸報告をお聞きし綿密な打ち合わせを致しました。そして、22日(火)に東松島と石巻を。23日(水)は多賀城と七ヶ浜を、林司祭と信徒の方々2名、合計4名で回りました。給油を待つ長蛇の車や緊急車両の走行等でどの道路も混雑しています。目的地が近づくにつれて道路が埃っぽくなり、泥も多くなります。枯れた黄色い草が目立ち始めます。信号の消えている45号線という主要道路には米軍・自衛隊・緊急車両・一般車両が走行しています。そのうち見えて来るのは、潰れた車、ひっくり返った車、3台も重なった車、草や瓦礫が詰まった車、湖のような田んぼの中にある車、建物に張り付いた車、ぐしゃぐしゃになった車の山々、家に突き刺さった車、電柱や家や塀に登りかけているような車。津波です。家は壊れ、家がある筈のない所に家があり、泥だらけになった方々が瓦礫を整理しています。倒壊した家や様々な瓦礫のために通行出来ない道もあり、一般の乗用車では通らないほうが良いと思われる道路も多くありました。建物にも道路にも津波の跡があり、「あ、ここまで来てる」という言葉が何度も出て来ました。瓦礫がかき分けられ、やっと車が1台通れるような所も多く、目的地に行くために苦労します。壊滅状態の所もあり、ヘドロやオイルその他の強い刺激臭の瓦礫の壁の間を歩きます。このような中で人々は辛うじて残った我が家から泥をかき出したり壊れた物を運び出したりしているのです。流れて来ている物を食べている方々もおられるとお聞きしました。泥だらけのカップ麺をビニール袋にいっぱい入れた方もおられました。このような中、水・食べ物・ガソリン・灯油等をお届けして参りました。現地の悲しみは、とても語り尽くす事は出来ません。でも現地で経験したのは、決して悲しみだけではありません。訪問者である私たちの健康を気遣う被災者の深い思いに触れ、心が震えました。

### III. スタッフの方々の様子から.

言うまでもなく、対策本部スタッフは皆、献身的に活動しています。加藤主教は多くの電話に対応され、多くの文章を打ち、ミーティングを導き、絶えずスタッフを気遣い、疲れと不安と緊張の私たちをユーモアで守ってくださっています。涌井司祭は山形から通われ、ホームページ上に活動記録をし、情報発信を1日中されています。李司祭もこの支援のわざを分かち合い、大聖堂の長椅子を移動して下さり、ブルーシートを敷き、支援物資の置き場をお作り下さいました。食器洗いを専門に担当して下さった方、接待の奉仕をして下さる方、美味しい揚げ物を作って来て下さった方、その他、見える所・見えない所で、多くのご奉仕がなされています。安否確認・支援物資の提供のために1日中タクシーで回っているご婦人たちもおられます。2日間私が同行させていただいた3名の方々にしぼって述べさせていただきますと、一人の方は、ご自身が天津波から命がけで逃れて来た方で、その方が、安否確認・支援物資提供のために1日中外を回っているのです。もう一人の方はとても道路に詳しく、「こっちは混んでる。こっちはほうがスムーズ行ける」と道案内をして下さいました。このお二人が、交代で、ずっと運転をされたのです。高速道路で一部に危険な段差が出来、長時間待たされ

た時にもユーモアで車内を明るくして下さいました。そして、林司祭の存在はとても大きいと感じています。この大変な時にそのお人柄で、私たちを支えておられます。また、精力的に回られ、細かな配慮で事を進められ、一人一人に優しい言葉をかけ、共に祈り、「司祭さんが来てくださって本当に良かった」と皆様が言っておられました。ヘドロの強い臭いがする瓦礫の間を一生懸命に信徒の方のお宅を小走りに探しておられました。主が、司祭さんのご健康もお守り下さいますように。

食糧、水、電気、ガス、薬、ガソリン、灯油、それらの運搬、仮設住宅・心のケア・原発の問題等を始め、課題は山積みで、復興には時が費やされる事となりますが、東北道も開通し、事は少しずつ進んで行くと思っています。祈り続け、自分に出来る事を継続的にして行かなければと思っています。

先遣隊として現地で活動したのは4日間のみでしたが、この短い期間で個人的に考えさせられた事が1つあり、それは見えるところは何でもないようでも、まだそれぞれが興奮しており、もう少し時が必要だという面があったのではないかと、いう事です。現地を回り、感じたのは、それほど大きな地震であり、被害であった、という事なのです。勿論、命は何よりも大切なものであり、食べ物を始め、必要な支援は少しでも早くなされる必要があるのですが、もしかすると、この私自身の善意から出た言葉や振る舞いが、茫然と立ち尽くしている被災者の方々の心の痛みに、圧迫感のようなものを与えてしまった事は無かっただろうか、と考えさせられています。今までこのような事を考えた事は私は無かったのですが、被災地で、ギリギリのところで生きている（ように感じられる）方々に接していて、何故か、そんな思いになっているのです。何れにせよ、被災者のすべての必要が満たされ、東北の生活が1日も早く、復興致しますように。

## 震災支援 Q & A

---

- Q 救援物資を送る際の留意点はありますか？。また送料に救援募金を用いる事ができますか？
- A ●物資を送る際には、内容品目を具体的に書いた紙を段ボール箱の上面と側面に張って下さい。
- 救援募金を送料に用いても結構です。その場合には、教区に募金を送金する際、送料に用いた金額を通信欄などでお知らせ下さると、教区の募金記録に留めます。
- Q 教区に送金した救援募金は、教会外の方々の支援のためにも用いられますか？  
また教区が行う募金は、所得控除の対象になりますか？
- A ●東北教区と共に行う支援の対象には、被災信徒も含まれますが、大半は地域の被災者となると思います。教区や管区が行う支援活動ではなく、義捐金として募金に参加したい方は、日本赤十字などの窓口をご利用下さい。教会によっては、支援募金と義捐金の二つの募金箱を用意されている所もあります。※義捐金は、配分の決定が一年以上後になる事が予想されますので、被災者の支援活動にすぐ役立つ事のできる募金を行っています。
- 教区が現在行っている募金は、税法上の控除の対象とはなりません。日本赤十字・中央共同募金会等特定公益法人に義援金を託す場合には、控除が受けられます。阪神・淡路大震災の際には、管区が「義援金の特別口座」を設けて控除対象にするための事務を行いました。今回も実施されるかどうかは、次回ニュースまでに調べお知らせいたします。

- Q このニュースを、教会で受け取る以外の方法で見ることが出来ますか。
- A ●日本聖公会北海道教区のホームページを通しても見ることが出来ます。

### 【震災支援室からのお願い】

- ◎ ニュース定期便は、各教会において掲示下さると共に、増刷して配布ください。
- ◎ 教会や個人での取り組みについても、お知らせください。他の教会の活動の参考になります。

【連絡・問合せ先】 電話：011-561-0451、ファクス：011-736-8377  
Eメールアドレス：saigai@nskk-hokkaido.jp